

第3章 山口県が目指す食育の方向

1 基本理念

食でつながる ひとづくり 地域づくり

県民一人一人が、食の大切さを理解し、食に関する正しい知識や判断力を身に付け、生涯にわたって健全な食生活を実践することにより、健やかな体と豊かな心を持ったひとづくり、地域づくりを目指します。

2 重点課題

基本理念の実現のため、国の「第3次食育推進基本計画」を基本とし、本県のこれまでの食育の取組等を踏まえ、5つの重点課題を設定します。

(1) 若い世代を中心とした食育の推進

子ども（幼少期～学童期）においては、健全な食生活を身に付け、食習慣を形成する基礎となる重要な時期であり、20歳代や30歳代はこれから親になる世代であることから、若い世代は食に関する知識や取組を次世代に伝えつなげていく大切な存在となります。こうした世代に対する食育の推進が、未来の山口県の食育へとつながるため、学校や関係団体等と連携を図り、若い世代を中心とした食育を推進します。

(2) 多様な暮らしに対応した食育の推進

県民一人一人が健全な食生活を実践できるよう、日常生活の基盤である家庭において、確実に食育を推進していく必要があります。少子高齢化や世帯構造の変化により、家庭生活が多様化する中で、家庭や個人の努力のみでは健全な食生活の実践が困難な状況があるため、地域や関係団体が県民と連携・協働を図りつつ、子どもや高齢者を含む全ての県民が充実した食生活を実践できるよう食育を推進します。

(3) 健康寿命の延伸につながる食育の推進

本県における健康寿命の延伸は、だれもが生涯にわたり、住み慣れた家庭や地域で安心していきいきと暮らせる社会づくりの実現に向けた県民全体の課題です。生活習

慣病の発症・重症化の予防や改善につながる健全な食生活を実践できるよう、関係機関・団体等様々な関係者が連携を図り食育を推進します。

(4) 食の循環や環境を意識した食育の推進

食に対する感謝の念を深めていくため、食料の生産から消費に至る食の循環を意識し、生産者をはじめとした多くの関係者により食が支えられていることを理解することが大切です。また、食品ロスにより環境への負荷を生じさせていることから、食品廃棄物の発生抑制を推進するなど環境に配慮することが必要です。生産から消費までの一連の食の循環を意識しつつ、食品ロスの削減等環境に配慮した食育を推進します。

(5) 食文化の継承に向けた食育の推進

地元食材を家庭で料理して食べることは食育の基本であるため、食育活動を通じて、郷土料理や伝統食材、食事の作法等、伝統的な食文化に関する県民の関心と理解を深めることにより、伝統的な食文化の保護・継承を推進します。

《 重点課題に取り組むにあたっては、次の2つの視点に留意する必要があります 》

◆ 子どもから高齢者まで、生涯を通じた取組を推進します。

食育の推進に当たっては、子どもから成人、高齢者に至るまで、生涯を通じた取組を引き続き目指していくことが重要です。

特に、子どものうちに健全な食生活を確立することは、生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育てていく基礎となるため、子どもへの食育の基礎を形成する場である家庭や学校、保育所等との連携により食育の取組を確実に推進します。

また、高齢者が健康でいきいきと生活できるよう、生活の質にも配慮しながら、健全な食生活の確保に向けた取組を推進します。

◆ 国、地方公共団体、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者、ボランティア等が、主体的かつ多様に連携・協働しながら食育の取組を推進します。

食育に関する施策の実効性を高めていくためには、県、市町、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者、ボランティア等、食育に係る様々な関係者が主体的かつ多様に連携・協働してネットワークを築き、取組を推進していくことが極めて重要であるため、取組の充実が図られるよう、互いに必要な資料や情報の提供、意見交換等、適切な協力や支援を行い取組を推進します。